

◇高橋邦武君

○議長（澁谷俊二君） 次に、2番、高橋邦武君の一般質問を許可いたします。高橋邦武君、登壇願います。

（2番 高橋邦武君 登壇）

○2番（高橋邦武君） 先月の町議会議員補欠選挙において町民の皆様のご支援を賜り、感謝申し上げますとともに、この場に立てておりますことを誠に光栄に存じます。

それでは、交流人口・関係人口の拡大について、通告に基づき一般質問をいたします。

新型コロナウイルスの感染拡大により、首都圏などの過度な人口集中はリスクをもたらすことが社会的に再認識され、東京一極集中の是正が求められています。このため、アフターコロナを前提としていますが、地方創生や地域再生を推し進める好機となっています。

県では、若者の地方回帰志向の高まりやリモートワークなどの新しい働き方の定着を踏まえ、人口減少の克服や地域の活性化に向けた取組を着実に推進し、高質な田舎の実現を図っていくこととしています。

こうした社会情勢の変化もあり、町としては、県の施策と連携するとともに、七滝山などの地域資源を活用することにより、新たな人の流れをつくり、交流人口や関係人口の増加に伴う地域の活気づくりに注力することですが、具体的にどのように進めていくことになるのかお伺いいたします。

新たな人の流れづくりに向けた施策は、これまで移住・定住人口や観光などの交流人口の拡大が中心でしたが、国をはじめ地方が新たなアプローチとして力を入れているのが、関係人口の拡大に向けた施策です。

関係人口は、風土や暮らしに共感してコミュニティーに溶け込み、地域の課題にも積極的に関わろうとしてくれる、主に県外在住者であり、継続的に町内を訪れて親交を深めることにより、地域のにぎわいや活気を呼び起こすことができます。

こうした関係人口の拡大により、ネットワークを広げ、多様な人材が地域づくりに参画することは重要であると思いますが、町の取組方針についてお伺いいたします。

また、関係人口に関連して、地域おこし協力隊がありますが、都市から地方に移住して、地域ブランドや地場産品の開発・販売・PR等の地域おこし支援や、農林水産業への従事、住民支援などの地域協力活動を行いながら、その地域への定住・定着を図る取組です。

地域においては、よそ者、若者による斬新な視点に加え、協力隊員の熱意と行動力が地域に大きな刺激を与えるメリットがあります。町においても、行政では手が回らない柔軟な地域おこし

策のほか、住民が増えることによる地域の活性化などの効果が見込まれます。

町の魅力を発信するには、今やSNSに精通した若者の力が不可欠です。そのため、一定のレベルにある人材を地域おこし協力隊として採用することについて、町の考え方をお伺いいたします。

次に、商工業や農業の振興は最も重要な施策であり、地場産品を地域だけでなく県外に売り込み、継続的な収入につなげることが求められています。

町では、地産外商の推進を計画に掲げ、東京都大田区を中心に町内生産品取扱い認定店の拡大に取り組んできましたが、首都圏において町内生産品を販売してくれる事業者等が必要であります。

県人会や連携企業などを通じたルートの開拓は可能性があると思いますので、首都圏に加え、仙台市は県出身者が多く、地理的に近いことから、仙台市における町内生産品の販路拡大についても、交流人口を活用できないかお伺いいたします。

最後に、町と民間企業との連携がさらに増え、県内で美郷町の特色の一つとして認知されてきていることは評価しております。連携企業は各種活動を実施し、町民と交流する機会も増えたことと思います。

また、秋田大学、秋田県立大学、国際教養大学の3大学との連携は、美郷町だけであり、それぞれの大学の強みを活用し、若者の感性も取り入れることが可能であります。

こうした様々な連携は県内で例がありませんので、産・学・官・金に町民を加えた交流会を開催することなどにより、さらに発展させた連携ができないのかお伺いいたします。

○議長（澁谷俊二君） 答弁を求めます。町長、登壇願います。

（町長 松田知己君 登壇）

○町長（松田知己君） ただいまのご質問にお答えいたします。

はじめに、地域の活気づくりについてですが、地域の活気は地域に「動き」があることであると私は認識しております。その動きをどうやってつくっていくかが肝要となりますが、幾つかの観点があるものと存じます。

まずは、地域資源等を活用して観光面で人及び情報が動くこと。また、地域資源等を活用した特産品などを介して、人及び情報が動くこと。そして、自治体や民間企業とのネットワークを生かして人及び情報が動くことで、こうした動きの中核となるのが交流人口や関係人口と定義される方々ではないかと私は認識しております。

はじめに、七滝山をはじめとする地域資源を活用した交流人口や関係人口の増加についてです

が、町では、平成31年3月に、美郷町観光振興計画を策定し、町内に点在する地域資源を組み合わせ、さらにはアウトドアをはじめとしたニューツーリズムと連携させることで体験メニューを充実させ、観光客の滞在時間の延長を図ることとしております。また、観光客の受入れ体制の構築として、観光ガイドや各種アクティビティのインストラクター育成、宿泊施設の充実などを進めていくこととしております。さらには、情報受発信体制の構築として、観光情報を網羅的に収集して観光客等に情報発信を行うほか、町内事業者も活用できるシステムの構築を進め、観光を通じた交流人口、関係人口を増加させていく計画としております。一気に実現できる内容ではありませんので、段階的、計画的に取り組を進めてまいりたいと存じます。

次に、美郷雪華をはじめとする地域資源を活用した特産品などを介した交流人口や関係人口の増加については、これまでのフレグランスや日本酒、みそ、菓子など、既に町内で商品化されているところですが、今後さらに生産量、流通量を拡大していくためには、従前からの人的ネットワークをさらに活用するとともに、新たなネットワークを構築し、物流のパイプを太く、多様にしていくことが肝要と存じます。そうした物を介した関係性や交流が、結果的に交流人口や関係人口になるものと存じますので、今後も様々なご縁を大切に、各般の取組を推進してまいりたいと存じます。

そして、自治体や民間企業とのネットワークを生かした交流人口や関係人口の増加については、自治体間の人事交流や業務上の職員交流、企業との人事交流や業務上の職員交流を通じ、プライベートでの交流も拡大してきております。こうしたこれまでの交流を大切にしつつ、町外在住者から町のよさを積極的に情報発信していただき、美郷町の知名度向上につなげることで、交流人口や関係人口の拡大に努めてまいりたいと存じます。

こうして生まれた関係人口のネットワークの中で、議員ご質問のとおり、まちづくりに参画してくださる方がいらっしゃれば、それはありがたいことと存じます。現在、町内に海外から引越されてきた方が在住しておりますが、その方にはわら細工等の振興に関わっていただいております。既に在住者ですので、正確を期せば関係人口とは申せないと存じますが、このような広くネットワークをお持ちの方とつながり、何らかの形でまちづくりに関わっていただくことは大切と存じますので、今後も、個人、組織に関わらず、出会いを大切に、認識で臨んでまいりたいと存じます。

次に、地域おこし協力隊の採用についてですが、町では平成28年度に美郷町地域おこし協力隊設置要綱を制定し、県主催の合同募集説明会や一般社団法人移住交流推進機構が主催する地域おこしフェアへの参加、東京都大田区役所内の美郷町紹介コーナーでのPRなどを通して、採用活

動を行ってまいりました。

しかしながら、応募者の辞退などもあり、残念ながら採用に至っておらず現在に至っております。

一方、形は違いますが、同質の効果を有する人事交流は実施しております。具体的には、現在、日本航空株式会社より職員を派遣していただいております。町の観光振興に頑張ってくださいしております。また、来年度は、地域おこし協力隊と同様の地域おこし企業人交流プログラムを通じ、日本航空株式会社の関連会社より社員派遣を受けることとしております。

なお、派遣に当たっては、宣伝・広報戦略業務といったシティープロモーション、誘客、観光資源の掘り起こし、特産物のブランド化など、観光プロモーションを担える人材を軸に調整しているところです。

そのため、現時点では地域おこし協力隊を募集することは考えておりませんが、令和4年度以降については改めて検討してまいりたいと存じます。

次に、仙台市における町内生産品の販路拡大についてですが、仙台秋田県人会は、会員約600名と伺っております。町では、これまで交流自治体、とりわけ東京都大田区での販路拡大を意識して取り組んでまいりましたが、仙台市への販路拡大については、今後、その可能性を探ってまいりたいと存じます。

最後に、産・学・官・金に町民を加えた交流についてですが、町では、株式会社龍角散及び公益財団法人東京生薬協会と、薬用植物の栽培や上海ガニの学術研究飼養、日本航空株式会社との子供たちの羽田整備場の見学や職員の人事交流の実施、株式会社ヨネックスとバドミントンやソフトテニスなどの技術クリニックの開催、株式会社モンベルとはモンベル秋田美郷店の出店など、広く連携活動を展開しております。

また、大学については、秋田県立大学においては、あきた地域学というカリキュラムの中で本町でフィールドワークが実施されているほか、秋田大学とは学生コンサート開催や水環境に関する活動、国際教養大学とは認定こども園園児や小中学校の児童生徒との異文化交流を実施しているところです。

こうした取組に、子供を含めた多くの町民が参画しているところではありますが、議員ご提案の交流会という形では、以前日本航空株式会社とはありましたが、他の企業や大学とは行っておりません。

交流会の開催目的いかにによって、その是非が問われるものと存じますので、今後十分に検討してまいりたいと存じます。

以上です。

○議長（澁谷俊二君） 再質問ありますか。（「はい」の声あり）2番、高橋邦武君の再質問を許可いたします。

○2番（高橋邦武君） ただいまの人と人の縁を大事にするということにつきましては、非常に重要な視点だと思ひまして、先日、テレビでも取り上げられておりましたけれども、五城目町の馬場目ベースという活動がございまして、その中で、人の縁と縁を結んだら化学反応が起きたという話が非常に印象に残っております。交流人口、関係人口の拡大につきましては、こうした若者の定住あるいは起業のほかに、所得の向上、販路の拡大、さらには企業誘致につながるという可能性があると思ひます。こういった美郷町独自の交流、連携というものが、何か面白い町、あるいは何かをやっている町というふうな魅力のある町として認知されていくことを期待しております。町長には、その交流、連携の先にあります町の将来像につきまして、ご所見をお伺いいたします。

○議長（澁谷俊二君） 答弁を求めます。町長、自席でお願いします。

○町長（松田知己君） ただいまの再質問にお答えいたします。

行き着くところは、町民が自分の町に誇りを持つということだろうと私は考えております。誇りを持つためには、他者との連携の中で、自分の立ち位置、自分の姿が分かること、そしてその上で他者に対して自分の町を語れるということが大切であると思っておりますので、交流、関係人口の拡大によって、行く行くは、町民が自らの町に対し語れる町民になるための一つの手法として、関係人口あるいは交流人口を捉えたいと思ひます。もちろん、議員がおっしゃいました即時効果としては、物産の交流の拡大であったり、それに伴う所得向上であったり、様々な効果はあると思ひますが、行き着くところはそこにあると、私は考えております。

以上です。

○議長（澁谷俊二君） 再々質問ありますか。（「ありません」の声あり）

これで、2番、高橋邦武君の一般質問を終わります。